

食品安全研究会

【食品微生物研究部会】

<p>1, 2 月</p>	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 高温性の偏性嫌気性芽胞形成菌の分析方法を確立し、普及活動を行なっている。具体的には乳業、製糖、清涼飲料の各業界団体を訪問した。乳業技術協会には技術誌への掲載を依頼している。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 2/15 NITE にて情報交換会を実施した。NITE の客員研究員である名城大の田村先生にも参加していただいた。</p> <p>① NITE との共同研究契約を 2019 年 4 月から 2 年間延長するための契約書類作成中。</p> <p>② 今後の活動方針は以下の 3 点。 ・カビの分析方法についてノウハウも含めて手順化し、公開する。 ・自家ライブラリの作成方法について、島津社と共同で実習を含めた研修会を企画する。 ・株レベルでのタイピングの可能性を探る。</p> <p>③ 分科会リーダーの異動により、後任の取りまとめ役を選定中。</p> <p>(3) チルド勉強会 2/21 関係者で打ち合わせを実施した。</p> <p>① 芽胞の耐熱性試験方法の標準化検討 セレウス菌の基準株を用いて 8 社で耐熱性の測定を行なっている。</p> <p>② 低温増殖性ボツリヌス菌に関する調査の検討 12 月に日本缶詰びん詰レトルト食品協会の久保先生を訪問し、接種試験等について相談した。今後、活動内容を検討する。取りまとめ役は勉強会リーダーとは別の方をお願いした。</p> <p>(4) NGS プロジェクト Food Microbiology 誌に投稿された総説が無料で公開されている。 3/6 公開シンポジウムの開催に向け、準備中。</p> <p>2. 2019 年度 第 1 回部会全体会議を 3/6 NGS 公開シンポジウムの会場である大田区民ホールアブリコで予定している。</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 確立した高温性の偏性嫌気性芽胞形成菌の分析方法について 3 月までに乳業協会、乳業技術協会、精糖工業会、全国清涼飲料工業会に趣旨と詳細を説明。乳業協会、乳業技術協会、精糖工業会様には会員企業様への情報共有化のお願いを実施した。全国清涼飲料工業会においては 5/22 の技術委員会での会員企業への情報共有及び 8 月発刊予定のソフトドリンクス技術資料に試験法について掲載する方向で調整中。 3/28 分科会打ち合わせ</p>

	<p>試験方法の詳細部分の不具合や修正必要点などの意見交換を実施。 ILSI のホームページ等で掲載可能な形で試験方法の文書を再整備する方向で調整中。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <p>① NITE との 2019 年より 2 年間の共同研究契約の延長に向けた事務手続きを引き続き進行中。</p> <p>② 今後の活動方針は以下の 3 点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カビの分析方法についてノウハウも含めて手順化し、公開する。 ・島津製 MALDI 用ソフトウェア (Saramis) の自家ライブラリの作成方法について、島津社と共同で実習を含めた研修会の実施に向け、5 月以降に具体的に進める。 ・菌種同定以外の MALDI の活用可能性を探る。(株レベルでのタイピング等々) <p>③ 分科会リーダーの異動により、後任を選定し、引継ぎ作業を実施。次回 (6 月) の部会にて報告の上、正式に承認を得る予定。</p> <p>(3) チルド勉強会 「芽胞の耐熱性試験法検証」の取組みとして、8 社でセレウス菌基準株の耐熱性を測定した。試験法は各社の常法とした。現在、結果を取り纏め中。</p> <p>(4) NGS プロジェクト プロジェクトの締めくくりとして 3/6 に大田区民ホールアブリコで公開シンポジウムを開催した。119 名の参加であった。NGS 技術を食品産業分野で活用するため ILSI Europe と共同で取り組んだ総説文書の内容を含め、NGS 技術の概要と最新技術、食品安全に繋がる活用方法について 5 名の専門家・先生方にご講演いただき、内容について議論、理解を深めた。</p> <p>2. 2019 年度 第 1 回部会全体会議を NGS 公開シンポジウムの会場で開催した。参加者は 20 名であった。次の部会は 6 月に京都工芸繊維大学で開催予定。</p>
5, 6 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 本分科会にて確立した高温性の偏性嫌気性芽胞形成菌の分析方法を、国内の関連業界へ普及する活動の一環として、全国清涼飲料連合会 (全清飲) の技術委員会を通じて「ソフトドリンク技術資料」への掲載を働きかけている。 また、原料サプライヤーは海外に幅広く存在することから、海外にも認知される必要性を認識し、海外の検査受託会社をターゲットとして考えている。そのために、分析方法のプロトコルやバリデーションの詳細を詰めたいと考えている。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 分科会リーダーの後任が 6/21 の部会で 賛成多数で了承された。 NITE、島津社との共同講習会について、夏以降に部会員にも案内していく予定。 菌種同定以外にも名城大の田村先生と共同でバイオマーカー探索などの取り組みを考えている。</p> <p>(3) チルド勉強会 ILSI 会議室にて①参加各社、②リーダーとサブリーダーでそれぞれ打ち合わせを実施した (5/23)。今後、勉強会として文献読み合わせを進めつつ、それぞれの</p>

	<p>活動に取り組む。</p> <p>① 芽胞菌の耐熱性試験法の標準化検討 8社が参加してセレウス菌基準株を用いて各社各々の試験法でD値、z値を取得したが、近い値もあれば異なる値もあった。試験法を揃えて再度実施する予定。</p> <p>② 低温増殖性ボツリヌス菌に関する調査の検討 II群ボツリヌス菌芽胞の死滅条件等について、例えば国立医薬品食品衛生研究所の朝倉先生に話をうかがいたい。まずはメンバーからの質問を収集し、取り纏める。</p> <p>(4) ICMSF 勉強会 新しく分科会として発足したい。活動内容は主に以下の3点。</p> <p>① 勉強会 (ICMSF 関連文書の日本語翻訳など) ② 情報公開 (①成果のウェブページアップなど) ③ ワークショップの実施</p> <p>2. 2019年度 第2回部会全体会議を京都工芸繊維大学で開催した。 27名の参加であった。勉強会講師として井沢先生から「食品・農業分野における大気圧低温プラズマの活用」について、櫻井研究員から「大気圧プラズマの化学的性質と反応性：食品科学分野への応用を目指して」について御講演いただいた。</p>
7, 8月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 ソフトドリンク技術資料の8月発刊分への掲載準備。 分析方法のプロトコルやバリデーションの詳細を協議・検討中。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 ・島津製MALDI用解析ソフトSaramisの微生物同定データベースのin houseライブラリー拡充を目的として、NITE/NBRCが有するSuperSpectra作製ノウハウに関する技術講習会の開催を企画している。本件について、8月1日にNITE本所にて打ち合わせを実施した。分科会メンバーへの案内を送付し、参加意向を確認中である(8月末日〆切)。 ・NITEとの連携を深める目的で、ILSI部会内での勉強会講師として名城大 田村先生(NITE客員研究員)をご推薦した。</p> <p>(3) チルド勉強会 耐熱性試験法検証参加企業のうち、TDTチューブ法を採用している6社について詳細条件を調査した。調査結果を元に耐熱性試験結果を考察する。10月上旬に勉強会および打ち合わせ実施予定。</p> <p>(4) ICMSF 分科会 参加メンバーを募集し、ICMSF ビデオの原稿翻訳を開始。</p> <p>2. 2019年度 第3回部会全体会議を9/24に九州産業大で開催予定。当部会OBの中山先生より「食品分野におけるMALDI-TOF MSの活用」について講演していただく予定である</p>
9, 10月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 進捗無し。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・分科会の開催無し。 ・島津製 MALDI 用解析ソフト Saramis の微生物同定データベースの in house ライブラリー拡充を目的とした、SuperSpectra 作製ノウハウに関する技術交流会の開催に向けて、参加希望各社全てが一堂に会する形に変更し、2020 年 2 月に実施する予定となった。 ・名城大 田村先生 (NITE 客員研究員) の部会勉強会での講演 2020 年 2-3 月に実施すべく、候補日程を提案した。 <p>(3) チルド勉強会 10/8 ILSI 会議室にて、勉強会 (Challenge testing protocols について) および耐熱性試験法検証に関する打合わせを実施した。</p> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会 10/25 に分科会を開催し、ICMSF ビデオ 10 章中の 3 章分について字幕用の和訳を完成させた。 また、Web ページの見積もり取得、アカデミアへの委嘱、ICMSF へ著作権確認を行った。</p> <p>2. 2019 年度 第 3 回部会全体会議を 9/24 に九州産業大で開催した。20 名の参加であった。当部会 OB の中山先生より「MALDI-TOF-MS を用いた微生物迅速同定法の食品産業への展開」のテーマで講演いただいた。MALDI-TOF-MS の活用方法について活発に議論することができた。 第 4 回の部会は 12 月 2 日に(株)ニチレイにて開催する。主な内容は、国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会の活動について予定している。</p>
11, 12 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 進捗無し。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 島津製 MALDI 用解析ソフト Saramis の微生物同定データベースの in house ライブラリー拡充を目的として、NITE/NBRC が有する SuperSpectra 作製ノウハウに関する技術講習会の開催を決定した。日時：2 月 28 日 (金) @NBRC かずさ。 分科会の開催について、NITE と協議中。MALDI を用いた真菌同定だけでなく、eMSTAT を用いたバイオマーカー探索の活用についても情報共有いただける予定。</p> <p>(3) チルド勉強会 ポツリヌス試験の実施検討について、各参加企業からの要望等をアンケート形式で取りまとめ中。</p> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会 参加企業 7 社による ICMSF ビデオの日本語翻訳について、10 章のうち 3 章分が終了。YouTube への埋め込みを取り進めるとともに、別途作成予定のホームページ (作成費用を予算申請中) にも掲載していく。 今後は豊福先生 (山口大学) ご協力のもと、FDA や FAO のリスクアセスメントシリーズ文書の翻訳を考えている。</p> <p>2. 2019 年度 第 4 回部会全体会議を(株)ニチレイにて開催した。36 名の参加であった。 次期部会長団 (2020 年 1 月より) が選出され、賛成多数で承認された。</p>

勉強会は「国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会」の活動に関連し、下記の先生方にご講演いただいた。

- ・ ICMSF の最新トピックスと SDGs : 春日文子 先生 (国立環境研究所、フューチャー・アース)

現在作成中の ICMSF Microorganisms in Foods Book 9 の概要や、その SDGs との関連性、食品安全を考える際には食糧の安定供給や地球環境における持続可能性をも考慮する (多面的な視点を持つ) ことの重要性等について、ご説明を頂いた。

- ・ 食品安全行政の国際整合性について : 五十君静信 先生 (東京農業大学)

HACCP 制度化や営業届出制度創設の食品安全における国際整合性との関連性や、それらに実効性を持たせるための施策内容、CODEX 委員会の目的の意味合い等について、ご説明を頂いた。

ILSI Japan 活動報告<2019>

食品安全研究会

【食品リスク研究部会】

1, 2 月	<p>1. 部会活動：次期役員交代の準備作業を行った。</p> <p>2. ILSI Japan 動物実験代替法プロジェクト (AAT-Prj) ☆参加企業は 2 社増えて 16 社。</p> <p>1) 第 1 回定期会議開催 (3/4)。進捗を確認、議論した (21 名参加)。第 2、3、4 回をそれぞれ本年 6/7、9/4、12/6 に予定。</p> <p>2) 2020 年国際ワークショップ (ILSI Europe コラボ)</p> <ul style="list-style-type: none">・プログラム委員：ILSI Europe (アカデミア 1 名/インダストリー 2 名) 及び ILSI Japan (アカデミア 2 名/インダストリー 2 名) の合計 7 名就任。・日程/地域：2020 年 10 月 22 日 (木) - 23 日 (金) に京浜地区開催。・内容：動物実験が求められる世界の動向。動物実験代替法活用の現状と必要な研究の示唆。動物を用いない研究の必要性へのアピール。・プログラム概要が決まった段階で、アジア各支部 (特にインド、中国)、その後他支部へ紹介、参加募集予定。 <p>☆上記内容にて ILSI Europe と合意。</p> <p>3) ワーキンググループ (WG) 活動</p> <ul style="list-style-type: none">・腸管吸収 WG：ヒトの腸管吸収性の予測技術の確立を目指す。取り組みについて専門家 (昭和薬科大 山崎教授、東農大 清水教授) と議論。・データベース WG：反復投与毒性試験及び生殖発生毒性試験の代替法として活用可能なデータベースの構築を目指すことで合意。取り組み方法について専門家ヒヤリング予定 (東大 庄野先生)。
3, 4 月	新旧役員で引き継ぎを行うとともに、今後の活動の進め方について協議した (4/12)。
5, 6 月	<p>1. 2019 年度第 2 回目の部会を開催 (2019 年 6 月 7 日)。 2019 年活動計画として、①食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信、②参加企業の食品リスク評価のレベルアップのための勉強会を行うこととした。</p> <p>2. 第 46 回日本毒性学会学術年会 (2019 年 6 月 26~28 日、徳島) において、シンポジウム「日本における食品のリスク評価は進化したか?」(座長：吉田緑先生 (食品安全委員会)、福井英夫 (Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社)) で「食品領域の安全性評価の課題と ILSI Japan の新たな取り組み」を発表した。発表では、これまでの食品リスク研究部会の取り組みに加え、現在行っている高齢者を対象としたリスク評価の考え方の整理や代替法推進の取り組みを紹介した。</p>
7, 8 月	2019 年活動計画「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」として高齢者における食品-医薬品相互作用に関する文献を精読、情報を抽出した。9 月 4 日開催の部会 (2019 年度第 3 回目) にて、今後の進め方について協議する。
9, 10 月	2019 年度第 3 回目の部会を開催 (2019 年 9 月 4 日)。 ・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」として高齢者における食品-医薬品相互作用に関する文献を精

	<p>読、情報を整理した。その結果、高齢者特有の相互作用は見出せなかったため、本調査は終了とし、これまでの検討結果を報告書としてまとめることとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方、参加企業の食品リスク評価のレベルアップのための勉強会は、山添先生（食品安全委員シニアフェロー）をお招きして11/25（月）実施予定。
11, 12 月	<p>2019 年度第 4 回目の部会を開催（2019 年 11 月 25 日）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」の報告書作成に向け、構成、骨子、担当者、スケジュールについて審議。2020 年内の完成を目指して、着手することとした。 ・また、参加企業の食品リスク評価のレベルアップのための勉強会として、山添康先生（食品安全委員シニアフェロー）をお招きし、「加齢と薬物代謝」について講演、22 名参加。 ・次回、食品リスク評価のレベルアップのための勉強会として、国衛試安全情報部長・畝山智香子氏に講演を依頼、3 月実施予定。

ILSI Japan 活動報告<2019>

食品安全研究会

【香料研究部会】

1, 2 月	
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	特に進捗なし
11, 12 月	特に進捗なし

ILSI Japan 活動報告<2019>

AAT プロジェクト

◆概要

1, 2 月	
3, 4 月	食品領域における動物実験代替の推進。 参加企業数 15 社 (2019 年 3 月現在)
5, 6 月	食品領域における動物実験代替の推進。 参加企業数 15 社 (2019 年 6 月現在)
7, 8 月	食品領域における動物実験代替の推進。 参加企業数 15 社 (2019 年 8 月現在)
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・食品領域における動物実験代替の推進。 ・参加企業数 15 社 (2019 年 10 月現在) ・幹細胞を用いた化学物質リスク情報共有化コンソーシアム scChemRISC 第 2 回研究会にて AAT プロジェクトの活動概要について紹介した (10/16)。
11, 12 月	12/6 にプロジェクトの全体会議を開催し、国際 WS 等の各 WG の次年度の活動方針と計画について合意した。また、次年度会費についても説明し、理解が得られた。1 社が脱退となり、参画企業は 14 社となった。

◆2020 国際ワークショップ (WS) (ILSI Europe 協働)

1, 2 月	
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・2020 年 10 月 22 日 (木) - 23 日 (金)、横浜で限定公開 (AAT 関連メンバー等) にて開催予定。 ・ILSI Europe とプログラム委員会開催。 (3/28)
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として 2020/10/22~23 に横浜で限定公開 (AAT 関連メンバー等) にて開催する。 ・進捗: ILSI Europe とプログラム委員会を開催、発表者の選定を開始することとなった。
7, 8 月	<p>【概要】食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として 2020/10/22~23 に横浜で限定公開 (AAT 関連メンバー等) にて開催する。</p> <p>【進捗】プログラム案作成し、ILSI Europe に提案した。</p>
9, 10 月	<p>【概要】食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として 2020/10/22~23 に横浜で限定公開 (AAT 関連メンバー等) にて開催する。</p> <p>【進捗】ILSI Europe との Web 会議にて、プログラムの年内確定、一部を除く座長・演者の合意、大会長 (Overall chair) の設置、他支部 (アジア、北米) への連絡等を了承。座長・演者への説明を開始し、施設の最終化を進めている。</p>
11, 12 月	<p>【概要】食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として 2020/10/22~23 に横浜で限定公開 (AAT 関連メンバー等) にて開催する。</p>

	<p>【進捗】日本側の Overall Chair・座長・演者への説明を終了し、施設も決定した。プログラム委員会およびプロジェクトの全体会議にて WS のプロジェクト内の位置づけ・目的並びに Statement の発出・骨子案を確認し、参加費用についても検討した。さらに ILSI Europe との Web 会議にて、1 月中のプログラムの確定、2 月からの招待状の発送、statement の発出、WS レポートの投稿、日欧の費用負担割合について同意した。アジアの各支部への再確認、プログラムの確定、招待状の準備を進めている。運営実務を担当するサブメンバーも決定し、活動を開始した。</p>
--	---

◆腸管吸収ワーキンググループ

1, 2 月	
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和薬大山崎研との協働を進めるべく、先生の動態予測モデルを検証するため、動態データのある食品化合物を収集。 ・講演会：東農大清水先生（6/7）
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会：東農大清水先生をお招きし、「食品成分の腸管吸収—メカニズムと測定方法—」と題してご講演会いただいた。腸管吸収研究の重要さと難しさについて理解を深めた。（参加：27 名） ・昭和薬大山崎研にて食品成分にも適用可能な動態予測モデルの最適化の可能性について検討することとなった。
7, 8 月	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬大山崎研の動態予測（計算）モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】食品関連化合物情報を提供して予測値と文献値の比較を行った。さらに文献値の学習等によりモデルの改善が図られた。</p>
9, 10 月	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬大山崎研の動態予測（計算）モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】予測モデル構築に用いた化合物群（学習セット）と食品成分との間で化学構造的特性を比較した結果、類似の傾向を示すことが分り、食品成分を学習セットに新たに追加せずとも、現状の動態予測モデルを活用できる可能性が見いだされた。</p>
11, 12 月	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬大山崎研の動態予測（計算）モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】成果を日本動物実験代替法学会（11/20-22、シンポジウム）および日本薬物動態学会（12/9-12、ポスター by 山崎研）にて発表した。</p>

◆データベースワーキンググループ

1, 2 月	
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・東大庄野先生とデータベースや予測ツールについて議論（3/27） ・食品成分の毒性情報データベース構築に向け、既存の毒性情報収載データベースの収集とそれぞれの仕様に関する整理を実施。
5, 6 月	食品成分を含んだ独自の毒性情報データベース構築に向け検討中。
7, 8 月	<p>【概要】毒性文献等を活用した反復投与毒性を予測する手法の活用。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】反復投与毒性を予測する外部プロジェクトとの連携について検討を開始した。</p>
9, 10 月	<p>【概要】毒性文献等を活用した反復投与毒性を予測する手法の活用。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】反復投与毒性を予測する外部プロジェクトとの連携を検討。ILSI のニーズに</p>

	合ったデータセットの活動ができるよう、様々な予測系への展開を可能とするデータフォーマットを選定した。
11, 12 月	<p>【概要】 毒性文献等を活用した反復投与毒性を予測する手法の活用。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】 データを収集する際に使用するインプットフォーマットについて、今後の汎用性を鑑み、HESS-DB フォーマットを使用することに決定した。作業工数の把握を目的に当該フォーマットを用いて 1 物質について登録作業を開始。</p> <p>データを収集する食品成分について、AI-SHIPS のケミカルスペースを元に一般化学物質と比較して食品成分の存在比率の高い区画に分類された食品成分から選定することを決定し、それら区画からの成分の選択について継続検討中。</p>

◆定期会議

1, 2 月	
3, 4 月	次回予定：6/7
5, 6 月	6/7 に定期会議を実施、WG 等の進捗を確認、議論した。 次回予定：9/4
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9/4 に第 3 回定期会議を開催した。 ・ 次回定期会議予定：12/6
9, 10 月	・ 次回全体会議の予定：12/6
11, 12 月	次回の全体会議は 3/5（木）を予定。

ILSI Japan 活動報告<2019>

バイオテクノロジー研究会

1, 2 月	<p>1. 2019 年度 第 1 回目会議を 1 月 24 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書 第 42 号が 1 月 21 日に発刊、ERA プロジェクト調査報告 第 43 号の勉強会： <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 </p> <p>(2) GM 微生物食品について： <ul style="list-style-type: none"> ・ 3/18 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ開催。 準備状況について共有化。 </p> <p>(3) GM 作物について： <ul style="list-style-type: none"> ・ ERA 調査報告書特別号「日本における GM 作物の ERA の発展」林先生による報告会は来春 4/26 に予定。 ・ 2019 IS Biosafety Research (旧称：ISBGMO) 準備状況報告。 </p> <p>(4) FY2019 活動助成金通過見込みについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 件の助成金が請求額通り通過する予定であることが報告された。 </p> <p>(5) そのほか <ul style="list-style-type: none"> ・ 橋本名誉部会長が TC34/SC16 国内対策委員会 GMO 分科会の委員となることが決定された。 </p>
3, 4 月	<p>1. 2019 年度 第 2 回目会議を 3 月 11 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書 第 43 号を 4 月発刊、ERA プロジェクト調査報告 第 44 号の勉強会： <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 </p> <p>(2) GM 微生物食品について： <ul style="list-style-type: none"> ・ 3/18 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ準備状況について共有化。 </p> <p>(3) GM 作物について： <ul style="list-style-type: none"> ・ ERA 調査報告書特別号「日本における GM 作物の ERA の発展」林先生による報告会 4/26 の準備状況報告。 ・ 2019 IS Biosafety Research (旧称：ISBGMO) 準備状況報告。 </p> <p>2. 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップを 2019 年 3 月 18 日に明治大学駿河台キャンパスアカデミーコモンで開催。 産官学 46 名参加 (ILSI Japan 2019 年度活動予算)。 高度精製添加物および食品の安全性評価において科学的な見地からの課題を産・官・学で共有化、議論。今後協働して取り組むことが確認された。 「高度精製添加物・食品の法制度」 厚生労働省医薬・生活衛生局食品基準審査課 医系技官・バイオ食品専門官 三橋康之氏 「高度精製添加物・食品の安全性評価の考え方」</p>

	<p>明治大学農学部農芸化学科 中島春紫教授 「申請の現状と今後の課題」 ILSI Japan 協和発酵バイオ㈱ 森下幸治氏</p> <p>3. ISBR2019（タラゴナ、スペイン）及び本会議後に開催されたワークショップへ先生を派遣。 「The recent regulatory framework of genome editing organisms and foods in Japan」 農研機構 田部井豊先生、筑波大学 大澤良先生 「Comparison in mutation frequency among wild types, tissue cultured mutants, genome-edited mutants, and transgenic lines in rice」 筑波大学 津田麻衣先生 「Recent regulatory improvement for ERA of GM crops in Japan」 筑波大学 大澤良先生 「Transportability of data for ERA of GM crops in Japan」 ILSI Japan バイエルクロップサイエンス 後藤秀俊氏</p> <p>4. ERA 調査報告書特別号「日本における GM 作物の ERA の発展」を 3 月発刊。 発刊記念講演会報告会を 2019 年 4 月 26 日に学士会館で開催。 産官学 48 名参加。林先生の長きにわたる OECD での活動、今後の展望を含め特別号に沿ってお話された。大澤先生による発表の後フリーディスカッションを行った。 「日本における GM 作物の ERA の発展」 ILSI Japan コンサルタント 林健一氏 「日本における遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価のこれから」 筑波大学生命環境系 大澤良 教授</p>
5, 6 月	<p>1. 2019 年度 第 3 回目会議を 5 月 30 日に開催 (1) ERA プロジェクト調査報告書 第 44 号を 5 月発刊、ERA プロジェクト調査報告書 第 45 号の勉強会： ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 (2) GM 微生物食品について： ・ 3/18 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ報告書執筆状況について共有化。イルシー誌 8 月号に掲載予定。 (3) GM 作物について： ・ ISBR2019（タラゴナ、スペイン）及び本会議後に開催されたワークショップ派遣者報告書について： 報告書を ERA 特別号としてを ERA 第 45 号と同時に発行を目指し準備中。 ・ ゲノム編集技術に関する内部勉強会について： 次回研究会(8 月 8 日)に開催することに決定。 (4) その他： ・ ISO/TC34/SC16 総会ポスト WS について： 5 月 16 日開催 第 1 回企画委員会について報告。</p>
7, 8 月	<p>1. 2019 年度 第 4 回目会議を 8 月 8 日に開催 (1) ERA プロジェクト調査報告書 第 45 号を 7 月発刊、ERA プロジェクト調査報告</p>

	<p>第 46 号の勉強会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) GM 微生物食品について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3/18 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ報告書執筆状況について共有化。イルシー誌 No.139 号に掲載。 <p>(3) GM 作物について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ISBR2019 (タラゴナ、スペイン) 及び本会議後に開催されたワークショップ派遣者報告書について： 報告書を ERA 特別号としてを ERA 第 45 号と同時に発行。 ・ 昨年 11 月 7 日開催の「遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価に関する公開ワークショップ-隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティに関する考察」がイルシー誌 No.139 号に掲載された。 ・ 筑波大学、小口太一、菊池彰、渡邊和男先生による「わが国の学術目的での遺伝子組換え植物の第一種使用規定の承認審査の変遷：申請者の視点による評価」がイルシー誌 No.139 号に掲載された。 <p>(4) その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ISO/TC34/SC16 総会ポスト WS について： 7 月 30 日開催 第 2 回企画委員会について報告。 <p>2. ゲノム編集技術に関する内部勉強会を ILSI Japan 会議室にて開催： 日時：8 月 8 日木曜日 15:30～17:30 演者：農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門 遺伝子利用基盤研究領域 先進作物ゲノム改変ユニット 主任研究員 遠藤真咲先生 参加人数：19 人 内容：① SDN-2, 3 の分子機構 ② ガイド RNA の設計法 ③ ゲノム編集作物の開発状況 の 3 演題を通じ、ゲノム編集の技術の基礎から日本・世界の開発状況について講演いただいた。</p>
9, 10 月	<p>1. 2019 年度 第 5 回目会議を 10 月 31 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書 第 46 号を 10 月発刊、ERA プロジェクト調査報告 第 47 号の勉強会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) ISO/TC34/SC16 総会ポスト WS (11/22 開催予定)について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 月 28 日開催 第 3 回企画委員会について報告。 当日の運営補助についても議論。 <p>(3) アドバイザリー委員選任について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜国立大学大学院環境情報学府環境遺伝子工学研究分野 平塚和之先生が選任された。 <p>(4) その他 来年度活動等について議論。</p>
11, 12 月	<p>1. ISO/TC34/SC16 総会ポスト WS —遺伝子組換え食品 表示制度の動向と検査法の品質管理 を 2019 年 11 月 23 日 に開催。</p>

会場：アイビーホール (IVY HALL) 3階「ナルド」

参加者：産官学計 115 名

プログラム

Session I

- Michael Sussman
(USDA-AMS, ISO/TC34/SC16 委員会マネージャー)
“*Bioengineered Food Disclosure 101*”
- Raymond Shillito (BASF Corporation, ISO/TC34/SC16 議長)
“*SC16 activities, and GM testing in supply chain & its quality control in US*”
- 蓮見由香 (消費者庁食品表示規格課)
“*遺伝子組換え表示制度について*”

Session II

- 近藤一成 (国立医薬品食品衛生研究所)
“*日本における遺伝子組換え食品検査法*”
- 橘田和美 (農研機構 食品研究部門)
“*GM 検査における標準物質*”

Session II

- Marco Mazzara (EC Joint Research Centre)
“*GM Testing harmonization in EU*”
- Lutz Grohmann (BVL, CEN/TC275/WG11 座長)
“*Official GM Testing & its quality control in an EU member state (Germany)*”

★一部当日資料は ILSI Japan ウェブサイトに掲載

<http://www.ilsijapan.org/ILSIJapan/LEC/biotech/GMO201911.php>

2. 2019 年度 第 6 回目会議を 12 月 13 日に開催

(1) ERA プロジェクト調査報告書 第 47 号を 12 月発刊、ERA プロジェクト調査報告 第 48 号の勉強会：

- 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。

(2) 部会長会議について

11 月 7 日に開催された部会長会議について報告。

(3) 隔離ほ場試験データトランスポートビリティについて

これまでの議論の振り返り、論点整理、意見交換する良い機会であるため、現在投稿中のダイズ論文が掲載された後には WS を開催することが提案され、承認された。

(4) 2020 年度活動計画、助成金申請について：

来年度の助成金承認見込みについて共有。正式決定され次第事務局または部会長よりメンバーに連絡。

(5) 会計報告、その他

- ERA 報告書について、450 号に達したので集約版を作成することが提案され、承認された。昨年 3 月、8 月の特別号を巻末に付録として挿入する予定。

ILSI Japan 活動報告<2019>

栄養健康研究会

【栄養研究部会】

1, 2 月	特記事項なし。
3, 4 月	2019 年度第 1 回目の部会を開催（2019 年 3 月 8 日） ・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議（2019 年 10 月 1, 2 日開催）について、事務局と情報を共有。
5, 6 月	2019 年度 2 回目の部会を開催（2019 年 6 月 18 日） ・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議（2019 年 10 月 1-2 日開催）の準備について、事務局と情報を共有。
7, 8 月	第 8 回「栄養とエイジング」国際会議（2019 年 10 月 1-2 日開催）の準備 ・会場（国際連合大学、渋谷区）の下見：2019 年 7 月 18 日。 ・会場運営について事務局と情報を共有：2019 年 8 月 2 日。
9, 10 月	第 8 回「栄養とエイジング」国際会議開催 ・事務局、健康な食事研究会と協働で、前日（9/30）：準備。当日（10/1-2）：会議運営。
11, 12 月	・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議 開催後の活動として、栄養研究部会が担当した講演について、フラッシュレポート用の原稿を事務局に提出（「イルシー」誌に掲載予定）。

ILSI Japan 活動報告<2019>

栄養健康研究会

【GR プロジェクト】

1, 2 月	第 4 回 GR 法多施設試験 (2019 年 1 月~3 月を予定) 実施中
3, 4 月	第 4 回 GR 法多施設試験 (2019 年 1 月~4 月) 2019 年度農芸化学会大会にて口頭発表、ポスター発表「食後血糖値の予測を目的とした食品の試験管内糖化速度測定法 (GR 法) の開発」 (優秀発表ならびにトピック演題に選出)
5, 6 月	第 4 回 GR 法多施設試験実施ならびに集計
7, 8 月	第 4 回 GR 法多施設試験検討会 9 月 6 日を予定
9, 10 月	多施設試験に関する結果報告を行った。
11, 12 月	12/7 農芸化学会・関東支部例会において下記タイトルで発表 「食後血糖値の予測を目的とした食品の試験管内糖化速度測定法 (GR 法) の開発」 (発表者 ; 山崎製パン株式会社 陶山達矢)

ILSI Japan 活動報告<2019>

栄養健康研究会

【茶類研究部会・茶情報分科会】

1, 2 月	2/7 茶情報分科会 打合せ 2019 年 分科会の方針について ・ピロリジンアルカロイドに関する情報共有と今後の取り組みについて → ILSI 茶情報分科会内での今後の情報共有の確認 ・ISO の チャ カテキン分析法への対応について → 分析用標準品の提供と主要カテキン類の ISO 分析法への組み込みに向けた発信について ・紅茶テアフラビン類の物理科学情報の発信
3, 4 月	
5, 6 月	進捗報告特になし
7, 8 月	進捗報告特になし
9, 10 月	特に進捗なし
11, 12 月	特に進捗なし

ILSI Japan 活動報告<2019>

健康な食事研究会

◆健康な食事研究会全体

1, 2 月	<p>1) 2/4 第7回全体会議 (ILSI Japan 会議室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗報告会発表内容確認 ・進捗報告会フラッシュレポート (担当者分担済み) (「イルシー」誌 139 号・5 月中旬原稿締め切り) ・10 月「栄養とエイジング」国際会議までのスケジュール確認 (「イルシー」誌 140 号・7 月末要旨原稿締め切り、 「イルシー」誌 141 号・11 月中旬フラッシュレポート原稿締め切り) <p>2) 2/21 健康な食事研究会進捗報告会 (日本橋公会堂) を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・113 名の参加登録 (17 名欠席) で 96 名の参加者であった。 ・メールでアンケートの結果、健康な食事研究会会員以外からの回答も得られ、今後の最終報告が期待されるという声が見られた。 ・健康な食事研究会各 WG リーダー3 名からの発表の後、次の 2 講演を行った。 講演 1 : 日本食パターンが心身の健康に及ぼす影響について 東北大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学専攻 公衆衛生学分野 教授 辻 一郎 講演 2 : 健康寿命延伸への取り組み メタボとフレイル 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事/ 国立健康・栄養研究所 所長 阿部 圭一 ・パネルディスカッションでは「健康な食事の要件」と「自然な社会定着の方法」についてディスカッションされた。 <ul style="list-style-type: none"> ① 健康な食事の要件 健康の定義を決め、日本食スケールを、地中海食のように発酵調味料や調理法、食事法なども含めて項目を 10 個ぐらいに絞ることが要件として出された。 ② 自然な社会定着の方法 以下のような意見が出された。 <ul style="list-style-type: none"> ・食育 (ヘルスリテラシーの向上)、経済格差に起因する健康格差の是正 (給食の充実、イギリス減塩規制のような仕組みの必要性など) ・経済的弱者の中の健康人の研究や、日本食と非肥満の研究を行うことにより、提言を発信し、研究結果を社会に還元できるのではないか ・OECD のレビューにみられる日本の公衆衛生政策の特徴 (健診頼みの傾向が強い / 「健康日本 21」はポピュレーション戦略不足 / 災害弱者対策の強化が必要)
3, 4 月	<p>◇第 8 回全体会議は 6 月 5 日 15 時から 17 時を予定。</p> <p>◇2 月 21 日に行われた、健康な食事研究会進捗報告会のフラッシュレポート原稿 6 人分の原稿が集まり、安川理事長の冒頭文を依頼。139 号掲載予定。</p> <p>◇栄養とエイジング国際会議の発表内容に関して、フラッシュレポートの担当と要旨担当を決める。</p> <p>◇アドバイザーの先生方 (8 名) に 1 年間の委任状を 4 月 15 日付で送付。メール上</p>

	で事前に快諾頂き、承諾書を拝受した。
5, 6月	5月17日健康な食事研究会進捗報告会(2月21日)フラッシュレポート原稿終了し、「イルシー」誌139号に投稿完了した。 6月5日 健康な食事研究会全体会議： ① 各WGからの報告 ② WG1-3の有機的な連携に関する議論 ③ 「健康な食事」に関する共通概念についての議論。 第8回「栄養とエイジング」国際会議に向けて発表内容・要旨準備の確認をおこなった。
7, 8月	・健康な食事研究会進捗報告会投稿：「イルシー」誌139号にフラッシュ・レポートとして投稿。 ・「栄養とエイジング」国際会議フラッシュ・レポート内容の15名分担。当日スタッフとしての分担も快諾。
9, 10月	・10月1日2日に国連大学で300名を超える参加者で開催された第8回「栄養とエイジング」国際会議で、健康な食事研究会の活動の集大成を1日目の午後、3つのワーキンググループから以下のように発表した。 ① 健康な食事の定義に関する課題と問題提起 ② 健康を直接的に押し出すよりも消費者に間接的に健康を感じさせる表現のあることが中食の実態調査からわかったこと ③ 社会実装としての健康経営に関する調査報告から見えてきた、知らず知らずのうちに健康になる環境整備の必要性 質疑応答から関心の高いことがうかがえた。 ・企業スタッフとして15名が栄養とエイジング国際会議の当日運営にかかわり、「イルシー」141号に掲載予定のフラッシュ・レポートの作成の分担も行った。 ・10月25日第9回全体会議で参加メンバーへ国際会議を報告し、今後の方向性を議論した。12月上旬に「健康な食事研究会」の今後の活動に関して、第10回全体会議を行う予定。
11, 12月	・第8回「栄養とエイジング」国際会議開催後の活動として、健康な食事研究会が担当した講演について、フラッシュレポート用の原稿を事務局に提出(「イルシー」誌に掲載予定)。 ・健康な食事研究会の今後の方向性について、12月3日に参加企業の主なメンバーで議論を行うと共に、12月9日の第10回全体会議で再度議論した。これまでの健康な食事研究会は、ここで一度区切りをつけ終了。今後、方向性を明確化させる予定。

◆ワーキンググループ1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築

1, 2月	・1/25 第13回勉強会 東大佐々木研で打ち合わせ(11名参加)。次に何をやるかのプレストを行った。日本食の定義が曖昧なため、「健康な日本食」は検証できなかった。 これを踏まえ健康な食事の概念構築のために、今後、次のアクションが考えられる。 ① 「健康な食事」を日本の食(文化含む)で定義する方法を検討する → 地中海食やDASH食の手法を学ぶことから。 ② 「健康」から「日本食」を定義できるか検証する → 議事メモに記載のあった寿命、死亡率、その他バイオマーカーなどと食事・食品・栄養素の影響を検討する。 * 具体的手法は方向性が決まってから新メンバーで検討する。
-------	--

	<p>* 昨年の報告書に関しては「イルシー」誌 138 号掲載を目指し準備を進めていたが、編集担当者の指示により参考文献の扱いの書き直しが必要になり、139 号掲載（5 月中旬締め切り）に変更した。</p> <p>* 大崎サブリーダーの転勤により次のサブリーダーは具体的な方向性が決まってから選ぶ。</p> <p>* アドバイザー児林先生の東大退職に伴い、健康な食事研究会のアドバイザーも辞退された。</p>
3, 4 月	<p>◇WG1：4 月 16 日東大佐々木研究室で事務局会議。今後の方向性に関して、次回 6 月 5 日 13 時 15 分から 14 時 45 分のミーティングを ILSI Japan 会議室で行う予定。同日第 8 回健康な食事研究会全体会議後 17 時から情報交換会を実施する。</p> <p>・文献検索の結果レポートに関して、「イルシー」誌 139 号に投稿すべく改訂版を準備中。参考文献および評価文献の表現方法の見直し終了後、5 月半ばまでに全員回覧の上、提出する。</p>
5, 6 月	<p>5 月 31 日：2017-18 年の活動報告を「イルシー」誌 139 号に投稿完了した。</p> <p>6 月 5 日ミーティング：全体会議での発表内容を確認し、「健康な食事」「健康」の定義を明確にすること、WG1-3 の有機的なつながりに関して議論することを提案することにした。また、有機的なつながりの一例として、WG2, 3 の調査結果の科学的文献検索を WG1 が担当すると提案することにした。</p> <p>6 月 11 日：WG2 からの要望に応じ「栄養素の優先度と栄養バランスを充足するのに必要な時間」に関して、WG1 のリーダーの佐々木先生より文献を提供され、健康な食事研究会メンバー全員に共有した。</p>
7, 8 月	<p>イルシー誌 139 号に投稿した活動報告書の校正を実施。</p> <p>メール上でやり取りして、「栄養とエイジング」国際会議の要旨の英日とスライドを用意した。</p>
9, 10 月	<p>・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容の準備。要旨、英日翻訳、配布スライドおよび発表準備。</p>
11, 12 月	<p>・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議の発表内容をまとめ、Nutr. Rev.への投稿論文を完成させた。また、報告書を「イルシー」誌に投稿した。</p>

◆ワーキンググループ 2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2/14 日本生活協同組合連合会へのラウンドテーブルを行った。議事録は WG2 内で共有済み。 ・ 2/14 ミーティングを実施し、進捗報告会の発表内容の確認と、WG2 事務局スタッフとアカデミアの先生から、今年度の活動計画が紹介された。 ・ 外食産業ヒアリングの候補を挙げ、順次分担して調査する。 ・ 惣菜協会を介して紹介いただいた中食企業に対してアンケートをするべく準備を始めている。アンケート内容原案をグループ内でブラッシュアップしている。
3, 4 月	<p>◇WG2：惣菜協会会員各社にアンケート調査を実施するため質問内容案を作成。4 月 16 日の WG2 会議で確認の上、修正。今後、惣菜協会での内容確認、アンケート WEB サイト作成後、同協会から調査協力のメールを送付予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外食産業のインタビューを開始する（サブリーダーが外食関係のアドバイザーへヒアリングを実施済み） ・ 次回ミーティング 6 月 4 日 16 時から 17 時 30 分 ILSI Japan 会議室。

5, 6月	<p>5月8日：外食業界の調査を進める準備として該業界大手経営者へのヒアリングをサブリーダーが行った。まず簡単なアンケートをしてから個別訪問インタビューを行うこととした。</p> <p>5月31日：サブリーダーが日本惣菜協会を訪問してアンケート調査の依頼をし、同意を得た。</p> <p>6月4日：WG2 ミーティング：惣菜協会を訪問した際の報告をし、アンケートを開始することとした。また、外食業界に関するヒアリング内容を共有した。</p> <p>6月14日：日本惣菜協会会員企業様を対象とした Web アンケートを開始した。</p>
7, 8月	<p>◇7月11日 10-12時 WG2 拡大事務局会議：惣菜協会を通じて会員企業へアンケートを実施した。確認を行い、今後の進め方とデータ内容の表現方法を検討した。</p> <p>◇8月22日 15-17時 WG の全体ミーティング</p> <p>惣菜協会を通して行ったアンケート結果に関して、グラフなど整理して共有し、どのグラフを国際会議で紹介するかなど、調整した。最終的な報告先として、「イルシー」誌への掲載を目指すということで合意された。</p>
9, 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容の準備。中食業界アンケート内容結果から発表すべきグラフの取捨選択。要旨、英日翻訳、配布スライドおよび発表スライドの作成。 ・10月30日ミーティングの実施。国際会議での発表内容の共有。「イルシー」誌143号に活動報告書掲載を目指すことで合意。
11, 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容をまとめ、Nutr. Rev.への投稿論文を作成中。 ・12月6日にミーティングを実施。「イルシー」誌143号への論文投稿に向け役割分担とスケジュールの確認を行った。

◆ワーキンググループ3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証

1, 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・1/23 ミーティング (ILSI Japan 会議室) <p>これまでのヒアリングで得られた知見(9件)を共有(共通する成功・失敗要因の抽出)し、本年の活動内容について議論。その中では、データマイニング手法での解析結果も紹介された。進捗報告会の発表内容の確認を行い、2019年度の活動計画案に関して、地域や学校をターゲットにした調査も行うことを決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康経営優良企業のヒアリングは継続して行う(3月1社訪問予定)。
3, 4月	<p>◇WG3：3月26日健康経営優良企業であるA株式会社を訪問。PDCAをうまく回す方法論や環境を整える個別化の考え方など、参考になる多くの知見を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や行政等への追加ヒアリングや結果の集約等、今後の進め方に関して、メールベースで意見交換を実施中。
5, 6月	<p>6月5日：第8回「栄養とエイジング」国際会議までのスケジュールと分担の確認をした。市町村・小中学校・大学などのヒアリングに関して打合せを行い、7月の活動スケジュールを決めた(7月中に、大学1か所、地方自治体1か所のヒアリングを行うとともに、栄養教育・公衆衛生の専門家との勉強会を実施予定)。</p>
7, 8月	<p>◇7月12日 14-15時 30分 お茶の水女子大学 赤松先生「適切な食選択を促す要因」について勉強会。同日 15時 30分-17時 30分ミーティング。</p> <p>◇7月19日 10-11時 専修大学学生生活課訪問。</p> <p>◇7月29日 16-17時 宮城県登米市役所訪問。</p> <p>◇8月20日 15-17時 全体ミーティング：</p>

	<p>これまでの訪問先の議事録の共有。「栄養とエイジング」国際会議における WG3 の要旨とスライドの変更案を 9 月 6 日までに再度差替えを出すことで合意。活動の目安とまとめの報告先に関して話し合い、国際会議の内容も踏まえて、「イルシー」誌への掲載を目指すということで合意された。</p>
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容の準備。要旨、英日翻訳、配布スライドおよび発表スライドの作成。 ・11 月 8 日にミーティングの実施。「イルシー」誌 143 号に活動報告書掲載を目指すこと、そのためのワーキングを 2020 年 1 月～2 月に実施することを合意。
11, 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容をまとめ、Nutr. Rev.への投稿論文を作成中。 ・11 月 8 日にミーティングを実施。「イルシー」誌 143 号への論文投稿に向け役割分担とスケジュールの確認を行った。

ILSI Japan 活動報告<2019>

CHP

◆CHP 全体

1, 2 月	ILSI Annual Meeting (1/8~13 於 Tampa, USA) の際、CHP の活動のグローバルな展開を ILSI Research Foundation, ILSI SEAR と協働で展開する可能性について協議した。Rice Fortification のテーマについて、具体的可能性を継続検討することで合意した。
3, 4 月	The Power of Nutrition (栄養への新たな投資を促進する英国拠点の慈善団体) との連携 : 2020 年に日本で実施される予定の栄養サミットに向け、Chatham House (英国のシンクタンク) が The Power of Nutrition の支援を受けて「栄養問題とビジネス」に関する study を実施する。ILSI Japan がその study に参加する日本企業を募ることで合意した。
5, 6 月	The Power of Nutrition (栄養への新たな投資を促進する英国拠点の慈善団体) / Chatham House (英国のシンクタンク) が実施する「栄養問題とビジネス」についてのスタディー (2020 年栄養サミットで発表) への日本企業の参画を依頼した。7 月中に参画企業を確定し、スタディー実施をフォローアップする予定。 ◇ILSI Research Foundation と共同での Rice Fortification Project を検討した。Research Partner としての可能性のある MIT (マサチューセッツ工科大学) と協議した。
7, 8 月	The Power of Nutrition (栄養への新たな投資を促進する英国拠点の慈善団体) / Chatham House (英国のシンクタンク) が実施する「栄養問題とビジネス」についてのスタディー (2020 年栄養サミットで発表) に関し、引き続き参画できる日本企業を検討。
9, 10 月	・ 10 月 31 日 The Power of Nutrition / Chatham House (英国のシンクタンク) が実施する「栄養問題とビジネス」のスタディー (2020 年栄養サミットで発表) に、大塚ホールディングスの参加が決定した。
11, 12 月	日本栄養食糧学会において、5 月 17 日に同学会と ILSI Japan 共催のシンポジウム開催が決定。テーマは「食品摂取の多様性と健康—行動変容実現のための革新的アプローチ」で検討中。

CHP

◆Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養” プロジェクト

<p>1, 2 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ~元気で長生きのための運動・栄養プログラム~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 墨田区の委託で「栄養・口腔講演会」を開催した。区報で募集 (定員 20 名) 2 会場で実施。 2/13~14 会場すみだ女性センター 2/27~28 八広地域プラザ <1 日目> 口腔ケアに 関する講義 高柳篤史先生、栄養に関する講義 ILSI スタッフ <2 日目> 調理実習 協力)森永乳業 (14 日)、公益社団法人日本缶詰びん詰レトルト食品協会 (28 日) ・ その他の教室 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1/17 テイクテン教室参加経験者による自主サークル スカイテイクテン定例会 (押上オレンジルーム, 墨田区) ・ 1/30 介護予防「らくらく教室」講習会にて講義 (地域包括支援センター千住本町, 足立区)
<p>3, 4 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ~元気で長生きのための運動・栄養プログラム~</p> <p>3/4~6 古賀町社会福祉協議会委託事業として、①古賀町民が出演するテイクテンに関するビデオを作製。②講演会「サロンにおけるテイクテンの活用」実施。サロンボランティア 70 名参加 (吉賀町福祉センター, 島根県)</p> <p>3/7 津和野町シルバー人材センター委託事業として、島根大学とのコラボレーションでイベント「しまだいチェック 7 (セブン) & つわの TAKE10! (テイクテン)」を開催 (内容: 体組成/骨密度/動脈硬化度/歩行速度/脚力の測定、テイクテンと食生活チェック表説明)、60 名参加 (小川公民館体育館, 津和野町, 島根県)</p> <p>3/8 テイクテンリーダー研修、15 名参加 (津和野町シルバー人材センター会議室, 島根県)</p>
<p>5, 6 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ~元気で長生きのための運動・栄養プログラム~</p> <p>5 月 13 日, 27 日, 6 月 10 日, 24 日 横浜市社会福祉協議会主催「体操と栄養 まるっと健康教室~TAKE10!で自分の生活を見直してみませんか?」</p>
<p>7, 8 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ~元気で長生きのための運動・栄養プログラム~</p> <p>7 月 8 日 横浜社会福祉協議会主催 体操と栄養まるっと健康教室~TAKE10!®で自分の生活を見直してみませんか?~: (荏田地域ケアプラザ 多目的ホール, 横浜市)</p> <p>7 月 吉賀町町民向け普及ビデオ「よしかテイクテン」の完成。</p> <p>8 月 19 日 鹿児島県たるみず元気プロジェクト調査参加 (垂水市, 鹿児島県)。</p>
<p>9, 10 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ~元気で長生きのための運動・栄養プログラム~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9 月 10 日, 11 日, 13 日, 24 日, 25 日, 26 日, 10 月 8 日, 9 日, 11 日, 23 日, 25 日, 29 日すみだテイクテン (スポーツプラザ梅若、墨田総合体育館、すみだ女性センター) ・ 9 月 5 日~26 日 東京家政学院大学 栄養プロデュース実習 9 名参加 (ILSI Japan 会議室、墨田区)

	<ul style="list-style-type: none"> ・9月18日, 10月7日 テイクテンリーダー講習会 15名参加 (日本ハム株式会社東京本社、大崎)
11, 12月	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ～元気で長生きのための運動・栄養プログラム～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すみだテイクテン教室開催： <ul style="list-style-type: none"> 11月5日, 6日, 8日, 20日, 22日, 26日, 29日, 12月3日, 4日, 18日, 20日, 24日 (スポーツプラザ梅若、墨田総合体育館、すみだ女性センター) ・くぼりん体操監修 (テイクテンを基本とした楽しむ体操) (制作 日本ハム株式会社) ・冊子「食とスポーツで健康寿命をのばそう！」監修 (制作 日本ハム株式会社) ・日本公衆衛生雑誌 2019年11月号に原著論文として「介護予防を目的とした郵便による食習慣介入の効果：積雪・寒冷・過疎地域在住高齢者における検討」掲載 (https://doi.org/10.11236/jph.66.11_681)

CHP

◆Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®)

“途上国栄養改善と栄養教育” プロジェクト

<p>1, 2 月</p>	<p>NJPPP (栄養事業推進プラットフォーム) の委託事業としてインドネシアおよびカンボジアでの職場(工場)の栄養改善プロジェクトを推進した。両プロジェクトとも 2019 年 3 月で完了。NJPPP 事務局に報告書提出の予定。</p> <p>◇インドネシア</p> <p>健康な工場食導入の対象工場(日系自動車部品工場)での従業員の健康課題、工場食の問題点を研究委託先のボゴール農科大学と解析した。食事の栄養バランスの問題に起因すると考えられる過体重、高血圧などが多いことが判明した。2 月 11 日より本プロジェクトのパートナーである都給食が健康なメニューの提供を開始。TAKE 10! check sheet を用いた多様な食材摂取の推奨など栄養啓発活動も実施。</p> <p>◇カンボジア</p> <p>2/25~3/2 栄養強化米を用いた介入試験に関し、人間総合科学大学 中西先生、Reproductive and Child Health Alliance (RACHA)により end-line study を実施。介入による栄養状態、健康状態の改善についてデータ解析を実施中。</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>NJPPP (栄養事業推進プラットフォーム) の委託事業としてインドネシアおよびカンボジアでの職場(工場)の栄養改善プロジェクトを推進した。両プロジェクトとも 2019 年 3 月で完了。</p> <p>3/22 NJPPP 第 12 回運営委員会において、インドネシアおよびカンボジアの職場の栄養改善に関する study の結果を報告(三会堂ビル 9 階 石垣記念ホール, 東京)</p> <p>◇インドネシア</p> <p>End line study および Healthy menu の栄養、コスト解析をボゴール農科大学が実施。結果については、2019 年 8 月に行われるアジア栄養学会議(ACN2019: 於バリ島,インドネシア)で発表する予定。</p> <p>◇カンボジア</p> <p>7/15 の週に、study 結果の発表と今後の展開について議論を行うための workshop を準備中。</p>
<p>5, 6 月</p>	<p>6 月 27 日 NJPPP (栄養事業推進プラットフォーム) の委託事業運営委員会にて、「インドネシアでの給食提供による栄養改善プロジェクト Phase 2」を提案し承認された。本事業では、5 月までパイロット試験を実施していた工場において、引き続き効果の検証を行うと共に、他の日系工場への普及セミナーを開始する。また、「栄養強化米を用いたカンボジアでの職場(工場)における栄養改善効果実証試験」の結果を報告した今後の IT 企業との連携の可能性についても検討。</p>
<p>7, 8 月</p>	<p>[カンボジア]</p> <p>7 月 16 日 工場での栄養介入(栄養強化米の導入+栄養啓発活動)に関するワークショップ実施。介入試験結果の報告および今後の展開について議論。今年度、栄養強化米の導入についてスケールを拡大して実施すること、及び、栄養啓発活動について富士通の IT 技術を活用した取り組みを検討することを確認。参加者:カンボジア政府関係者含め約 50 人(Himawari Hotel, プノンペン)。</p>

	<p>[インドネシア]</p> <p>8月1, 2日 健康な工場食の展開に関しワークショップを実施、各々の工場での健康な工場食導入の可能性について議論。1日5社, 2日6社が参加(1日: GIIC 工業団地(Greenland International Industrial Center), 2日: EJIP 工業団地(East Jakarta Industrial Park), 西ジャワ州ブカシ県)。</p> <p>8月1日 14:00~16:00 ボゴール農科大学と今後の実施内容について検討(サンクレスト会議室, デルタマスシティ)。17:00~18:00 現地工場の担当部署と今後の実施内容について検討(現地工場会議室, GIIC 工場団地)。</p> <p>8月2日 15:00~16:30 現地給食業者、食品企業、マーケティング会社との面談(インドフード会議室, ジャカルタ)。</p> <p>8月5日 第13回アジア栄養学会議(ACN2019)のランチシンポジウムにてカンボジア、インドネシアにおける「職場の栄養」の取り組みについて報告。参加者約60人(バリ島)。</p>
9, 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・9月19日 栄養改善事業推進プラットフォーム(NJPPP) 第14回運営委員会(JICA市ヶ谷国際会議場, 東京) ・『インドネシアでの給食提供による栄養改善プロジェクト Phase 2』報告 ・カンボジア新規プロジェクト申請・承認 「カンボジアでの「職場の栄養改善」におけるブロックチェーン技術を応用した栄養啓発活動」 10月8~12日 富士通総研、ILSI Japan、現地スタディー実施工場他と新規プロジェクトに関し、打ち合わせ(プノンペン、カンボジア)
11, 12月	<p>◇栄養改善事業推進プラットフォーム(NJPPP) 委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Phase 2 対象工場にてベースライン調査(150名): 11月11~15日実施。非侵襲皮膚カロテノイド測定(11月13~14日)。 ・ボゴール農科大学(IPB University)・現地工場との打ち合わせ(デルタマス, インドネシア) ・第15回NJPPP 運営委員会: 12月5日 <p>『インドネシアでの給食提供による栄養改善プロジェクト Phase 2』報告。/ミャンマーにおける「職場の栄養改善」のプロジェクト(ティラワ工業団地で日系企業向けに給食ビジネスを展開しているワールド産業との共同事業)を提案し承認された。(石垣記念ホール, 三会堂ビル, 東京)</p>

ILSI Japan 活動報告<2019>

国際協力委員会

1, 2 月	<p>委員会開催：2019年1月31日（木）16:00～17:30</p> <p>【議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ILSI SEAR 取り纏めの “Review of status of nutrition labeling, nutrition and health claims regulations in Asia” を無償提供いただけない場合、参画企業に情報提供する目的で予算建てできるか検討 ・ ILSI の Mandatory Policies の改版に関して事務局より確認要請あり ・ ILSI NA からの『腸内細菌改善に関する日本でのヘルスクレームについての情報提供依頼』に対して国際協力委員会にて回答ができるか検討 ・ 農水プロジェクトで以前作成した各国のレギュレーションの更新に関しては、予算がないため他支部に協力を仰ぐことが難しいということを再確認 <p>2月活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ILSI NA に対して回答
3, 4 月	<p>委員会開催：2019年4月18日（木）15:00～17:00</p> <p>【議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一回委員会の議事録のレビュー ・ 台湾食品添加物規制改正案『食品添加物使用範囲及限量標準草案』について情報共有（特に酵素の扱いと香料の規制についてレビューを行った） ・ BeSeTo 以外の他支部との連携について相談（BeSeTo に参加していない支部に着目して新たな取り組みを検討するため、次回委員会より他支部の HP を参照して勉強会を行うこととする） ・ 第 85 回コーデックス連絡協議会資料（食品添加物部会 CCFA）レビュー <p>次回委員会は 2019 年 6 月 10 日を予定</p>
5, 6 月	<p>委員会開催：2019年6月10日（木）15:00～17:00</p> <p>【議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ILSI SEAR Food Packaging Symposium の演者招聘について ・ 11th BeSeTo 会議のトピックスについて ・ 情報源リンク切れ防止プログラム（定期自動チェック→アラート）の紹介
7, 8 月	<p>委員会開催：2019年7月2日（木）15:00～17:00</p> <p>【議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ILSI SEAR Food Packaging Symposium の Speaker については、当委員会からの依頼に基づき、厚生労働省主管課より発表者を検討いただいているとのこと。→その後、厚労省医薬・生活衛生局 食品基準審査課より担当官を派遣いただけたとの連絡があった。食品用器具・容器包装の PL 化の内容についてご登壇いただく。 ・ 11th BeSeTo 会議において、ILSI Japan から以下のトピックスで発表を行うことに決定した。 <p>Food loss, Allergen regulation, Functional claims (mild case data), Update on amendment of Food Sanitation Act, Sugar regulation</p>

	<p>・ ILSI 本部の、ILSI に対するネガティブな投稿論文及び、それに関するメディアへの対応を、委員会メンバーで共有した。</p>
9, 10 月	<p>第 11 回 BeSeTo 会議開催：2019 年 9 月 26 日（木）～27 日（金） 会場：ペナン、マレーシア</p> <p>・ ILSI アジア支部の食品関連法規情報交換会として、ILSI Focal Point of China, Korea, Japan, South East Asia Region, Taiwan 各支部のメンバー企業担当者が各国の食品に関する法規の Update 情報を 20 分程度のプレゼンの形で紹介した。今年度は約 40 名の参加があり、日本からは以下の 5 演題を発表した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① Reduction of Food Loss （関谷副委員長） ② Sugar Regulation （杉森委員） ③ Amendment of Food Sanitation Act （細野委員） ④ Foods with Function Claims （橋本副委員長） ⑤ Allergy Label （松山委員長） <p>その他支部より、豚コレラ、MSG、健康食品訴求、砂糖税、GMO ラベル、冷凍輸送チェーン等のプレゼンがあり活発な意見交換が行われた。</p> <p>委員会開催：2019 年 10 月 29 日（火）15:00～17:00</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネスレグループの退会の報告 2. コーデックス連絡協議会、対策委員会の委員への立候補の是非 3. 栄養表示・栄養ヘルスクレームモノグラフの発売 4. 今年度予算収支と来年度予算申請 5. BeSeTo 会議の報告
11, 12 月	<p>—第 11 回 BeSeTo 会議について「イルシー」誌への報告原稿執筆</p> <p>—ILSI India より、“Food Safety and Standards Notification Sl.35 dated 30/10/2019: Draft of Food Safety and Standards (Safe food and healthy diets for School Children) Regulations 2019” について規制情報の共有。</p>

ILSI Japan 活動報告<2019>

情報委員会

【情報委員会】

1, 2 月	<p>栄養学レビュー編集会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 27 巻 2 号、通巻 103 号、発刊 2/22、会員企業送付済み → 宣伝メール準備 ・ 27 巻 3 号、通巻 104 号採択論文 4 報 OUP 承認済み、翻訳・監修・初校・初稿戻し終了 → 再校編集中 ・ 27 巻 4 号、採択論文 4 報 (2/22)、翻訳者・監修者決定、翻訳中、OUP 承認取得済み → 翻訳締め切り 4 月末、監修締め切り 5 月末、発刊 8 月 10 日」予定
3, 4 月	<p>栄養学レビュー編集会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 27 巻 2 号、通巻 103 号、発刊 2/22、 ・ 27 巻 3 号、通巻 104 号、印刷中発刊 5/10 予定 ・ 27 巻 4 号、採択論文 4 報、翻訳中、監修締め切り 5 月末、発刊 8 月 10 日」予定 ・ 4 月 5 日に会員全員に宛てた「発刊お知らせメール」で 7 件の新規定期購読が得られた。今後継続する予定
5, 6 月	<p>5 月 27 日 16:00-17:00 栄養学レビュー編集会議：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 27 巻 3 号通巻 104 号、5/10 発刊 ・ 5 月 20 日に会員全員宛の「発刊お知らせメール」送信 ・ 27 巻 4 号通巻 105 号、採択論文 4 報、翻訳、監修終了締→8 月 10 日発刊予定 <p>6 月 14 日 10:30-11:30 イルシー誌編集会議</p> <p>6 月 28 日 10:00-11:00 栄養学レビュー105 号打合せ→印刷へ</p>
7, 8 月	<p>8 月 26 日 16:00-17:00 「栄養学レビュー」編集会議：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 27 巻 4 号通巻 105 号、8/05 発刊 ・ 8 月 9 日に会員全員宛の「発刊お知らせメール」送信 ・ 28 巻 1 号通巻 106 号→4 件採択→加筆終了 2 件、監修中 2 件→2019 年 11 月 10 日発刊予定 ・ 28 巻 2 号通巻 107 号採択論文 3 報、OUP 承認取得→翻訳者模索中→2020 年 02 月 10 日発刊予定
9, 10 月	<p>栄養学レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 28 巻 1 号、通巻 106 号採択論文 4 報 (5/27) → OUP の承認取得 → 再校 → OUP 承認取得済み → 2019 年 11 月発刊予定で入校 ・ 28 巻 2 号、通巻 107 号 (2020 年 2 月発刊予定) 編集会議 (8/26)、3 報採択 → OUP の承認取得 → 翻訳終了 → 監修中・締め切り(11/20) → 1 報監修終了・加筆中 → 2020 年 2 月発刊予定 ・ 次回編集会議 11 月 22 日 (金) 16 時～
11, 12 月	<p>栄養学レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 28-2 号 通巻 107 号 (2020 年 2 月発刊予定) <p>編集会議 8/26 3 報採択⇒年末までに監修原稿受領 ⇒12/25 栄養学レビュー編集会議 ⇒1/8 OUP 承認取得 ⇒見本納入予定 2/12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 28-3 号 通巻 108 号 (2020 年 5 月発刊予定) <p>編集会議 11/22 4 報採択 ⇒4 報とも翻訳者確定 (翻訳締切=1/31、監修締切=</p>

	<p>2/28) ⇒内 1 報監修原稿受領済み OUP に論文リスト未送付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回編集会議 2/17 (月) 16 時～ ・その他 ◆板倉先生 編集委員として次回編集委員会より参加予定
--	--

***編集部会**

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」誌 137 号発行 ・「イルシー」誌 138 号編集 ・「イルシー」誌 139～141 号原稿依頼検討、編集
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」誌 138 号編集 ・「イルシー」誌 139～141 号原稿依頼検討、編集
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」誌 138 号発行 ・「イルシー」誌 139～141 号原稿依頼検討、編集
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」誌 139～141 号原稿依頼検討、編集。
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」139 号発行 ・「イルシー」140 号発行 (第 8 回「栄養とエイジング」国際会議 要旨・スライドデータ集) ・「イルシー」141～143 号原稿依頼検討、編集。
11, 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」141 号編集 ・「イルシー」142～143 号原稿依頼検討

ILSI Japan 活動報告<2019>

事務局

【ILSI Japan 総会】

1, 2 月	平成 31 年通常総会が 2 月 21 日(木)午前 10 時より日本橋公会堂にて開催された。 審議事項 第 1 号議案 2018 年度事業活動報告及び決算報告案が承認された。 第 2 号議案 2019 年度事業活動計画及び収支予算案が承認された。 第 3 号議案 役員の報酬に関する定款変更が承認された。 3 つの議案について共に質問はなかった。 報告事項 本部総会報告 2 月 6 日の第 1 回理事会での報告と同様。
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	
11, 12 月	

【事務局】

1, 2 月	事務局次長としてキックマンから出向された小幡明雄氏が 2 月末で退職。
3, 4 月	3 月よりキックマンの山越純氏が、事務局次長として着任した。
5, 6 月	本年 2 月開催の総会にて決議された定款の変更（第 19 条 役員の報酬）を所轄の東京都生活文化局に申請し、いくつか指摘を受け修正の後、審査の結果、本年 5 月 31 日付の認証書をいただいた。ILSI Japan のホームページ上の定款を 6 月に差替えした。
7, 8 月	特になし。
9, 10 月	10 月 24 日付にて「栄養学レビュー」担当として元森永乳業(株)の箸本氏が就任した。
11, 12 月	12 月 31 日付にて、花王(株)から出向の柳澤佳子氏が退職。

【理事会】

1, 2 月	○第 1 回理事会が、2019 年 2 月 6 日（水）に開催された。 確認事項（平成 31 年通常総会決議事項） 1. 2018 年の事業活動報告及び決算報告書案 事務局が各研究会、研究部会ごとに事業活動報告をし、決算の概要を資料に基づき説明した。 2. 2019 年事業活動計画及び収支予算案 事務局が各研究会、研究部会ごとに事業活動計画及び収支予算の概要を資料に基づき説明した。 3. 定款変更 第 3 章 役員 第 19 条
--------	---

	<p>従来の定款では「総数の3分の1以下の役員は報酬を受ける事が出来る」という項目があるが、2018年8月に本部理事会により決議された Mandatory Policy 中の「理事は理事会や委員会の業務を遂行した場合でもその報酬を ILSI から受けてはならない」に則り、役員は無報酬とする修正条項を提案した。</p> <p>2号議案について2019年の活動計画案と収支予算案は、理事会承認のみにして通常総会では決議しないことが可能との意見が出て、これについて問題がないか所轄庁に確認することとした。</p> <p>また3号議案についてNPO法人の理事に報酬を支払わねばならないとの規定が法律があるので、所轄庁にその旨確認して欲しいとの意見が出た。</p> <p>以上2つの意見について所轄庁に確認したところ、前者は問題ないが透明性の点で通常総会の議案にする方が望ましい、後者はNPO法人の理事は報酬がない場合が多く、無報酬は問題ないとの回答を得た。結果、原案のまま総会に提出することを理事に確認した。</p> <p>報告</p> <p>本部総会報告</p> <p>本部機関には Assembly of Members (本部総会) と Board Of Trustees (本部理事会) があり、前者の構成メンバーがインダストリーに偏っているので、インダストリー1名、アカデミア1名の計2名のメンバーを全17支部より選出し、計34名で構成すること、また後者は効率よく、フレキシブルな運営が出来るように、構成メンバーを本部費の貢献および地域のバランスを考慮して、北米2名、欧州2名、Research Foundation 2名、東南アジア1名、ラテンアメリカ1名、中国・インド・日本・韓国・台湾のグループから1名、その他1名の計10名の理事に変更することを本部理事会にて決定した。</p> <p>また、“A Brave New World In Nutrition & Food Safety” と題して ILSI 2019 Science Symposium が開催され、そのうち「セッション1: New Technologies Advancing Accuracy in Food Intake and Physical Activity Assessment」において、東京大学の笹井先生に“Accuracy of wearable devices for estimating total energy expenditure: comparison with metabolic chamber and doubly labeled water method” というテーマで発表していただいた。</p> <p>本部総会の開催期間中に、BMJ (英国の権威ある医学雑誌) 誌に、コカコーラ社が中国政府の肥満対策の政策決定にイルシー中国を通して影響を与えている、という論文が掲載され、多くの欧米のメディアがそれを参照して記事にした。本部はイルシー共通のステートメントを即座に発信するとともに、論文に対するコメントをホームページに掲載するなど対応を図った。</p>
3, 4月	<p>○第2回理事会が、平成31年4月26日(金)に開催された。</p> <p><報告/討議事項></p> <p>1. 会員入退会 入会1社、退会2社、退会検討中1社、買収・合併による減少2社となった。</p> <p>2. 研究会・部会報告 ア) AATプロジェクト 現在16社が参加。情報収集・発信活動として「日本動物実験代替法学会」との連携を図るため会員登録した。また来年10月22, 23日に ILSI Europe との共催として「AAT アジア・ワークショップ」の開催を決定した。</p> <p>イ) 微生物研究部会</p>

	<p>3月6日大田区にて「NGSの食品安全への展望」と題し公開シンポジウムを開催した。</p> <p>ウ) バイオテクノロジー研究会</p> <p>3月18日に千代田区にて研究会メンバー限定の「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方についてのワークショップ」を開催した。</p> <p>エ) ACN (Asia Congress of Nutrition)</p> <p>本年8月4～7日にバリ島にて開催されるACNにて、「栄養と認知症」のセッションに、愛知県の国立長寿医療研究センターの佐治副センター長に「腸内細菌と認知症」と題する講演を依頼した。</p> <p>オ) 4月2日に栄養とエイジング国際会議 組織委員会開催</p> <p>会場が正式に「国連大学ウタント国際会議場」に決定した。また会議内容をNutrition Reviews 誌のSupplement (増補版)として出版を検討中。参加者の応募専用のWEBを開設予定。広報活動について専任チームをつくり参加者増を目指し今後強化していく。</p> <p>カ) CHPのNJPPP (栄養改善事業プラットフォーム)の活動報告</p> <p>昨年から今年にかけて、農水省のNJPPP事業を2件受託し、現地での活動内容を報告した。</p> <p>3. 新寄付講座の今後</p> <p>どのようなテーマで進めるかを議論した。今後の進め方、考え方を次回理事会にて行う予定。</p> <p>4. IUFoST Japanの委任理事の選任</p> <p>議論の結果、木村元会長に替わり、新たに坂田理事を選任し、松山理事の重任を確認した。</p> <p>5. 本部理事会報告</p> <p>ガバナンス変更に伴う規程の改定として、本部の理事会の役割と責任、支部総会の役割と責任が決定された。また来年の本部総会の内容、項目等の説明をした。</p>
5, 6月	開催なし
7, 8月	<p>第3回理事会を2019年7月26日(金)に開催した。</p> <p>1. 決議事項</p> <p>事務局長より来年組織されるILSI Assemblyのメンバーについて、その役割、参加する会議、任期を説明し、ILSI Japanの理事会のメンバーの内インダストリーから1名、アカデミアから1名選任すると説明した。議論の末、インダストリーは、阿部(文)理事、アカデミアは宮澤会長に満場一致で決定。</p> <p>2. 報告事項</p> <p>ア) 新寄付講座</p> <p>「新寄付講座」の内容の方向性について理事長より提案があり議論した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ILSIとして栄養と健康の分野は重要であり、国立健康・栄養研究所及び東北大の長寿センターと協働した取り組みで検討することが提案され、引き続きその方向で進めることで議論された。 <p>イ) 研究部会活動</p> <p>各部会の7～8月の活動内容について、事務局長より説明した。</p> <p>ウ) 2019年収支見込と収支改善の取組み</p> <p>今期の収支見込の説明を俵積田次長が説明し、それに続き事務局長が収支改善</p>

	<p>の提案を 2, 3 挙げ、議論をした。</p> <p>エ) 役員改選 来年 2 月に現役員の任期が満期になり、研究部会活発化を目指し、役員の増員を提案。候補の推薦など今後進め方を検討する旨説明した。</p>
9, 10 月	<p>第 4 回理事会を 2019 年 10 月 18 日（金）に開催した。</p> <p>1. 決議事項 木村毅副理事長が来年度、本部理事候補へ推薦されることに伴い、その選任基準を満たすため ILSI Japan 副理事長職の退任の説明があり、満場一致で可決された。 次に木村理事の副理事長退任に伴い、同じ業界の阿部（文）理事を新副理事長に選任した。また理事長の職務代行第一順位についても同じく業界から谷口副理事長を選任した。</p> <p>2. 報告・討議事項 1) 研究会・研究部会活動の以下内容について、事務局長より説明、報告した。 ア) BeSeTo 会議 イ) 栄養とエイジング国際会議 ウ) ISO/TC34/SC16 総会ポストワークショップ エ) 微生物研究部会（国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会） オ) AAT プロジェクト カ) CHP 活動</p> <p>2) 2019 年収支見込 俵積田次長より、連結ベースの収支は、7 月時の見込みより収支が改善していること、またその詳細を説明した。</p> <p>3) 新寄付講座の進捗 概要の説明が事務局よりあり、次回理事会にて最終案の提案を予定する。</p> <p>4) 新役員選任プロセス 新たなテーマと研究会活性化を考慮し「栄養と健康」、「環境・サステナビリティ」分野を進めたい。そのためのプロセスを検討して提案する。</p>
11, 12 月	<p>第 6 回理事会が令和元年 12 月 19 日（木）に開催された。</p> <p>I. 決議事項 議案： ① 2019 年度収支見込最終案 連結ベースでは、収入 80.2 百万円、支出 80.0 百万円、差引 0.3 百万円のほぼ収支均衡となる見込みで、これは予算に比し 4.0 百万円益となる見込（ただし、「栄養とエイジング」国際会議の Nutrition Reviews への投稿費用は 2020 年へ繰り越し）。 ILSI Japan はほぼ予算収支差額並みになる見込み。CHP は NJPPP の活動を活発にしたので収入が増加、ただし関連費用も増え予算収支に比し、0.5 百万円の損となる見込み。</p> <p>② 2020 年度収支予算最終案 連結ベースでは収入 71.0 百万円で大幅に減り、支出 77.6 百万円となり、差引 6.6 百万円の損失となり、前年より損失額は 6.9 百万円増加する。 2020 年度は第 8 回「栄養とエイジング」国際会議の Nutrition Reviews への投稿費用などが発生するが、それを除くと 2018 年とほぼ同じ収支になる。 ①、②双方とも異議なく承認された。</p>

II. 承認、報告、討議事項

1. 承認事項

1) 理事会での事前審議、承認プロセスについて

現在、理事会で事前審議及び承認を必要とする事項が規定されていないため重要事項が理事会の承認なく実施されるガバナンス上の問題があり、事前に承認する事項案を提示し討議した。次回の理事会までに意見をいただき承認の予定。

2) 寄付講座

3) 理事・監事再任案

アカデミア理事7名、産業理事が1名減り6名、監事2名を再任予定。

2. 報告、討議事項

1) ILSI Assembly の報告

ILSI Assembly が本部理事9名を承認。

2) 本部総会プログラム

2020年1月17日から始まるプログラム内容を日程別に説明。

3) 2020年の理事会、総会の日程